

発行日：平成30年10月 2日

発行者：今村証券株式会社

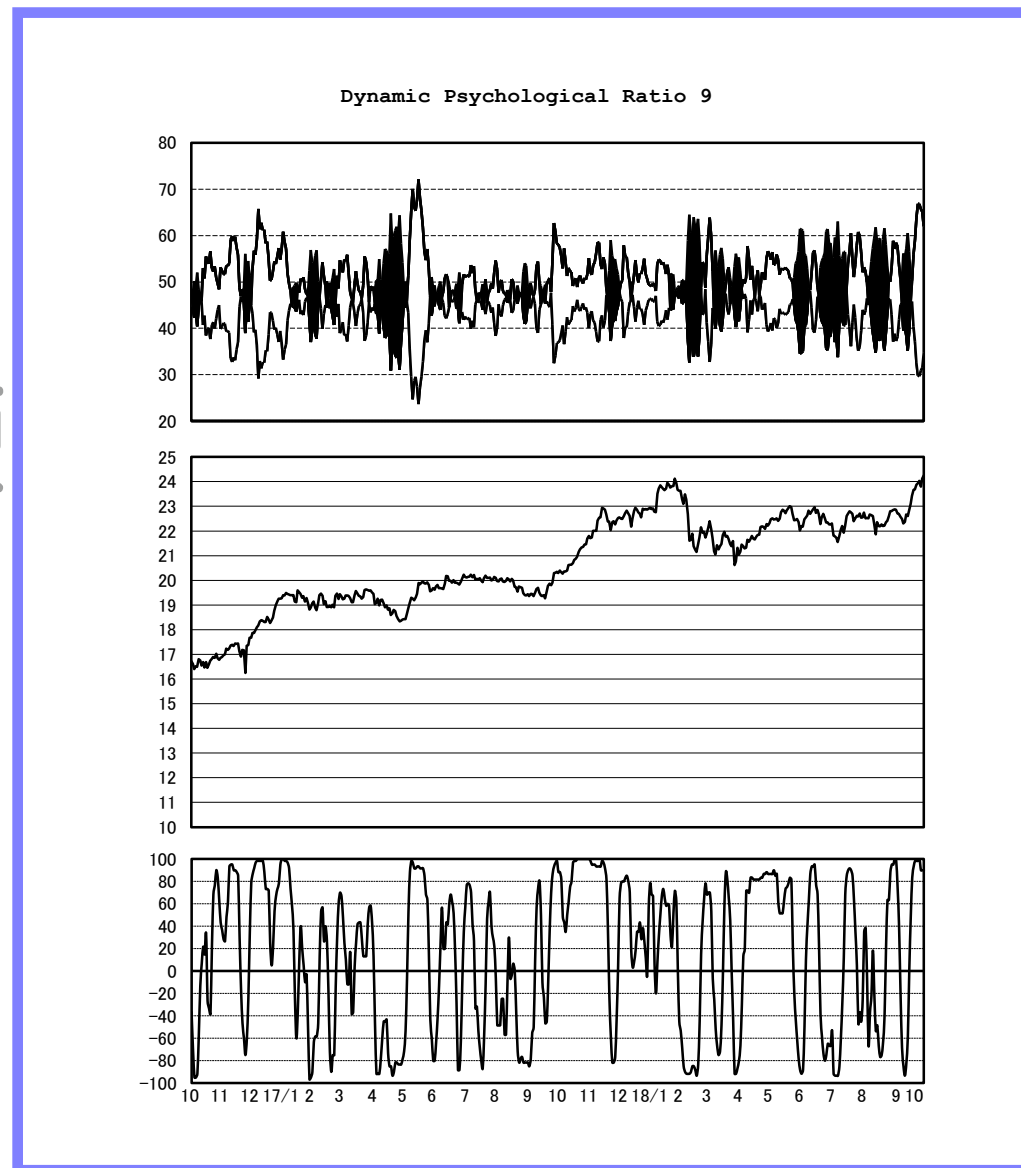
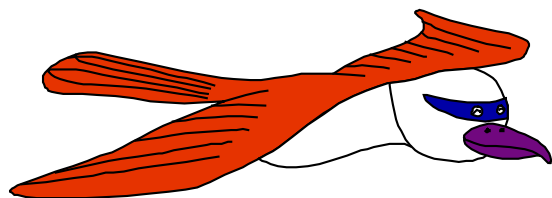
金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号

日本証券業協会加入

制作責任者：営業業務部 調査課

# 情報シャトル特急便

第629号



上図は騰落銘柄数をベースとした独自のもので、黒の幅が拡大→買い場、白の幅が拡大→売り場  
下図はRCI（9日ベース）で、-80%ラインを上につき抜け→買い場  
80%ラインを下につき抜け→売り場

# 大所高所

常識的に考えれば、現下の米国には不安材料が山積している。米中の貿易摩擦を筆頭に、トランプへの司法問題、原油高、そして中間選挙の行方等々。しかし、米国株は下がるどころか史上最高値を次々に更新している。株価が森羅万象あらゆる状況を反映して動いているとすれば…そしてそれはかなり高い確率で正しいことを歴史は示しているのだが…米国は今、最高の状況下にあるということだ。どこで我々の認識と株価が食い違っているのだろうか。

見解が分かれる最大の問題は関税競争だ。歴史の教える所によれば関税競争に勝者は無い。それを分かっているはずの米国が、果敢にそれを始めてしまった。メディアは口を揃えて、それを非難する。しかし時を経るに従い、これは単に貿易赤字縮小の為ではなく、世界覇権を目指す中国に待ったを掛けるものだということが分かって来て、ジワジワ共感の輪が広がりつつある。

しかも、米国の中国からの輸入金額は約5千億\$、中国の米国からのそれは約1.5千億\$、まともに関税を掛け合ったら、間違いなく米国が勝つ。…この競争が続けば、中国で暴動が起き、共産党一党支配は終焉するだろうという見方さえ現れている程だ。米国株の度重なる史上最高値更新（日本株27年振り高値更新も）は、この予測の上に成り立っていると考えるしかない。

(B I S)

# ただ一筋

名実共に下期入りとなった昨日、日経平均株価はザラ場で連日で年初来高値を更新し、終値ベースでも今年1月23日の2万4124円15銭を上回って引けた。この背景には、①米中貿易摩擦への懸念緩和、②日米通商懸念の後退、③安倍首相の自民党総裁選での3選決定、④急ピッチな米利上げへの警戒感の緩和、等々があろう。上値を抑えていた懸念材料が薄れ、海外投資家が日本株の割安修正に大転換した。9月第3週は4営業日だったにもかかわらず、外国人の買越額（現物・先物合算）が、約1兆5000億円にもなったことは凄い！

この不意打ちとも思える急上昇はリスクオンの姿勢を強め、ドル円相場でも114円台を付けるなど日本株上昇をサポート、年内2万5000円～2万6000円まで上昇するとの声が強くなってきた。実際に某調査会社の試算でも海外投資家が日本株を2兆円買い越せば、日経平均2万5700円、3兆円買い越せば2万6600円と言う。いつものように個人投資家や国内機関投資家は全くといって良いほどこの上昇相場に乗っていないのが現状だ。だからこそ、ここは「持たざるリスク」台頭の前買いに出動したい。

中長期テーマ「5G」・「自動運転」に不可欠なMLCC（積層セラミックコンデンサー）の成長性に期待したい。個別では太陽誘電（6976）、日本ケミコン（6997）、・・・イワキ（8095）などをマーク。  
（三感王）

# 当たり屋見参

日経平均株価が27年ぶりの高値ということで、日本株にかなり資金が集まってきています。ただ、これだけ短期間で資金を吸収しましたので、一旦23,500円前後まで調整があると予想します。そのような状況と仮定するならば、今から買うべき銘柄としては、順張りより逆張りで突っ込んでいくべきかと思います。

1つ銘柄を上げると、日本ライフライン(7575)はチャート妙味からも仕込み時とみています。海外から医療器具を仕入れ国内で販売している会社で、いわゆる商社ですが、独自商品に関しては、製造から販売まで手掛けています。粗利が高い独自商品の販売の増加で収益が上がっています。ライバル会社であるテルモの株価も上昇基調であり、業界自体の好調さが伺えます。同社の株価は今年3月ぐらいから半年ほど調整され下げ続けていましたが、調整完了と見ます。2017年5月と今年の年始以来の、日本ライフライン相場第3波の到来！！を期待したいところです。

(香る山)

# 老練の視座

日経平均は米中貿易摩擦の警戒で7月上旬、8月中旬に一時的に下落する場面があったものの、9月は外国人投資家が買いに転じて売買が活況となり、売買代金3兆円を超した日も4営業日あった。ソニー、ソフトバンクグループ等が高値を更新する中で、どうも私の保有銘柄上がらんわーと嘆く方もいるが、2月高値銘柄の信用期日が8月に来ていた事が原因であろうか。その後は個人投資家も元気を取り戻しつつあるように思われる。

何か異業種でおもしろい銘柄無いの？とのことであれば、結婚相談所や婚活サイトの運営をしているIBJ(6071)に注目したい。婚活業界最大手であり、登録会員は約60,000人。婚活サイトの収入源は、月会費3,000円×月会費課金者数、結婚活動に参加するイベントなら、イベント参加費平均4,000円×イベント動員数であり、かなりの高収益を実現している。また、ミクシィの子会社Diverseの株式を取得した。友人、恋人探しのマッチング事業、結婚支援事業、恋愛メディア事業を3本柱としており、収益に寄与し始めているようである。今後の株価動向に期待したい。

(ココニコ)

# きらきら星

日経平均株価が8カ月ぶりに年初来高値を更新しました。5月以降何度も2.3万円の壁に跳ね返されてきましたが、昨年10月の16連騰を彷彿させるような上昇です。自民党総裁選挙前後からの外国人買い、円安、米国株高が日経平均上昇を後押ししてくれたようです。

さて下期相場はどうかということになりますが、日米の通商関係に大きな問題が生じなければ、各社の収益計画の上方修正の波に乗り、年末までにはPERの妥当値から2.6万円台乗せを視野に入れた相場展開になるのではないのでしょうか。東証の空売り比率が依然40%前後もあることや、個人投資家がまだ参戦しきれていない現状から、ここまでの上げはまだまだ初動の動きだと考えられるからです。

このところ、ソニー、ソフトバンクグループの出来高を伴った上げが目を行っています。インバウンド関連の代表株である資生堂の戻りの良さも群を抜いています。反面、昨年活躍した東京エレクトロン、SUMCOといった半導体関連株の戻りの鈍さが気になります。ボックス相場から上昇トレンドに入った展開であると考えれば、逆張りより順張り手法が望ましいと考えられます。年内ひと稼ぎを狙って、ソニー(6758)、ソフトバンクグループ(9984)のほか、東海カーボン(5301)、三菱商事(8058)に注目したいと考えています。

(WR452)

# アナログの俯瞰

「もうはまだなり、まだはもうなり」「買いにくい相場は高く、買いやすい相場は安い」相場格言でいけば、日本の株式市場は、まだ上げ余地があるということか。首を傾げる投資家が多い中、この格言が生きてくる。上昇相場で怖いのは、相場がいつ下落するか不安もさることながら、この上げで株を買ってないといういわば持たざるリスクである。日本の市場を外から俯瞰している碧眼のプロは、米国と比較した出遅れ感や、はたまた消去法的な投資判断から日本株を買ってきている。反面、日本の株式市場という台風の目の中にある国内投資家は、静かな相場にしか見えていない、若しくは何かを見落としているのかもしれない。

斯く言う私も強気一辺倒ではないが、敢えて言うなら「売りながら買う」である。下半期最初の相場は高値警戒感、過熱感あれど確りした相場で、徐々に中小型株にも矛先は向かい始めている。個別物色しつつ、全体相場の押し目狙いで。オーソドックスに順張り、動くものにつけ！だ。米、中、北朝鮮、イランなど横睨みしながらも、日本株に対しては強い気持ちを少なからず持ち続けたい。

セキュリティ関連株としてアイビーシー (3920)、低PER・電子部品の日本ケミコン (6997)、高値追いだが今年の本命と信じてソニー (6758) 追撃！

(直撃台風！浮いた体が壁にぶつかり九死に一生クレイジーゲーマー)

# アナリストによる北陸企業便り

(近藤浩之)

## ＜前田工織＞

2018年9月期第3四半期業績は好調だった。ソーシャルインフラ事業（盛土補強材、排水材、河川護岸材、耐震補強材等）は売上高166億63百万円（前年同期比+6.0%）、営業利益29億29百万円（同+15.9%）、ヒューマンインフラ事業（軽合金鍛造ホイール）は売上高75億50百万円（前年同期比+17.1%）、営業利益13億11百万円（同+37.1%）となった。通期の会社予想に対する進捗率は、売上高が76.1%、営業利益が87.0%である。

中長期的にも成長が期待できる。ソーシャルインフラ事業は、多発する災害、インフラの老朽化に伴って事前防災・減災対策の工事が急務であることなどから根強い需要が見込める。ヒューマンインフラ事業は、来年に塗装を手掛ける新工場が完成し、2020年には大型プレス機を導入する。買収への積極姿勢も堅持し、9月には株式会社釧路ハイミール（フィッシュミール及び魚油の製造・販売）の買収を決めた。

業績を予想する。2018年9月期の営業利益は第3四半期までの好調を映して51億円程と予想、これは前期比+25.4%、会社予想比+15.9%の水準である。2019年9月期は好調ながらヒューマンインフラ事業が設備増強前のため押し上げ余地が限られるとみて、営業利益は55億円程を予想する。

株価は9月28日、過去最高値（株式分割考慮後）となる2,490円を付けた。更に過去最高値を更新する展開を見込んでいる。



# ” 僧 中 線 罫 ”

月足



週足



出所：ブルームバーグ

名実ともに下期入りした1日の日経平均株価の終値は24,245円(+125円)で、リーマンショック後の高値を更新した。政策期待の買いや、年金の買い、外国投資家も買い越しに転じてきた。10月下旬から本格化する3月決算企業の中間決算の先取り買いも、一段とヒートアップしていきそうだ。裁定取引の買い残の推移を見ると、今年のピークが1月5日の3.42兆円。3月23日が底の1.33兆円、5月18日では2.68兆円まで増えたが、直近の9月21日で2.12兆円となっている。裁定買い残から見れば、今回の上昇相場でも2.5～3兆円までは積みあがってもいくのではないかと。まだ上昇相場は始まったばかり。持たざるリスクの意識から、押し目待ちに押し目なしの展開になる可能性もありそうだ。

## 9984 ソフトバンクグループ

長期でチャートを見れば、上げ相場の第3波が継続中で、直近は昨年高値の10,550円を明確に上に抜けてきたところだ。今後も日経平均株価の押し上げに、大いに貢献してゆくのではないだろうか。注目したい。(ICHI)

\* 情報シャトル特急便は、投資家の参考となる情報提供を目的としておりますが、投資にあたってはご自身の判断でなされるようお願いいたします。

株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.1799%（税込）（1.1799% に相当する金額が 2,565 円未満の場合は 2,565 円（税込））の委託手数料をご負担いただきます。株式は、株価の変動により損失が生じるおそれがあります。

非上場債券を当社が相手方となりお買い付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動などにより価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。

投資信託にご投資いただくお客さまには、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費等をご負担いただきます。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資 1 単位当りの価値が変動します。したがって、お客さまのご投資された金額を下回ることもあります。

外国株式・外国債券等は、為替相場の変動などにより損失が生じるおそれがあります。

商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、その商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。